

2025年2月28日

各 位

会 社 名 株式会社カイオム・バイオサイエンス
代表者名 代表取締役社長 小林 茂
(コード：4583 東証グロース)
問合せ先 取締役経営企画室長 美女平 在彦
(TEL. 03-6383-3561)

OmniAb, Inc. との共同研究契約締結のお知らせ

当社は、OmniAb, Inc.（本社：米国・エメリービル、以下「OmniAb 社」）との間で、当社が研究を進めているパイスペシフィック抗体作製技術に関連した共同研究契約を締結しましたので、お知らせいたします。

当社では現在、独自技術である ADLib®システムを応用したパイスペシフィック抗体作製のための細胞表面ディスプレイ技術の開発を進めております。

本共同研究では、OmniAb 社が保有する OmniClic®等の抗体作製プラットフォームに係る技術と、当社技術の活用により、多サンプルを高速で評価が可能となる効率的なパイスペシフィック抗体作製系の構築を目的としております。

また、本共同研究で使用する技術は、当社が新たに立ち上げる IDD 型ビジネス（抗体創薬プラットフォームビジネス）においても活用していくことを想定しており、将来的な当社の収益力強化に繋がるものと考えております。

なお、2025 年 12 月期業績に与える影響は軽微であります。

以 上

<OmniAb 社について>

OmniAb 社（本社：米国カリフォルニア州エメリービル、CEO: Matt Foehr）は、次世代抗体医薬の研究開発を促進するため、医薬品研究開発企業に最も幅広い抗体レパートリーと革新的なスクリーニング技術を提供しています。なお、OmniClic®はパイスペシフィック抗体の創薬を加速化するための共通軽鎖技術です。

<パイスペシフィック抗体>

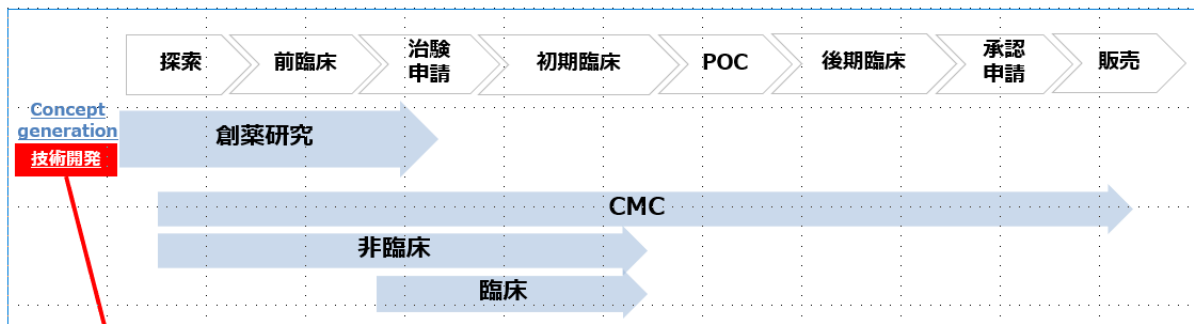
パイスペシフィック抗体は、新しい作用機序に基づく治療用抗体設計を可能にするなど、近年急速に発展を遂げている次世代の抗体創薬の中心となる新しい抗体モダリティの 1 つです。自由度が高く抗体設計が可能なることから、標的の組合せ、親モノクローナル抗体の最適組合せなどについて多サンプルを高速で評価できる技術が効率的なスクリーニングに必要とされています。

<IDD 型ビジネスにおける本技術の重要性>

IDD 型ビジネスは製薬企業等のパートナー企業の様々な研究開発ニーズに対して自社知識経験・技術に基づく解決法を提供し、共同で抗体創薬の研究開発を進め、マイルストーン収入を獲得していくビジネスです。本研究成果が IDD 型ビジネスを推進する上での重要な要素の一つとなります。

抗体創薬プラットフォーム：IDD (Integrated Drug Discovery)

抗体創薬のプロジェクトをスクリーニング、in vitro/vivo評価、CMC、IND、初期臨床までを一気通貫で対応可能なプラットフォームを構築。自社創薬と他社の研究支援に加えて、カイオムの創薬研究開発の経験知識・技術を元に、パートナーに様々な課題解決法を提供するIDDビジネスを手掛ける。



2種の異なるターゲットに結合することができる抗体を自由度高く抗体設計が可能となる。本共同研究では親モノクローナル抗体の最適組合せなどについて多サンプルを高速で評価する技術の構築を目的とする。今後のIDD型ビジネスを推進する上で重要な要素の一つ。